

# JIA 長野県クラブ 19

社団法人 新日本建築家協会

1995.08.15



クラブ会員による初の作品展。模型やパネルを大勢の人が見入っていた。(6月8日の通常総会に合わせて。会場は長野市の山王共済会館)



## 理想的な地域会を追求

代表  
須田 考雄

暑い夏が続いております。会員の皆様ご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

今年、秋(10月26~28日)に軽井沢で全国大会が開催されます。基調講演は「建築家資格制度について」。シンポジウムで「問われる建築家像」、座談会では「建築家とは…」等が語られます。JIA会員としてご活躍されております県内全会員の皆様方に登録をお願いし、大会に参加して頂きたいと思っております。この大会を、改めて社会に対し建築家の役割について考える機会として、また、多くの会員諸氏と親交を深め暖める機会として頂ければ幸いに存じます。地元地域会として長野県クラブも大会の成功を期しご協力致したいと思っておりますので、皆様方のご協力をお願い致します。

当クラブでは、会の活性化を図り、交流や親睦を深め、より充実した地域会として活動出来るように、会員諸氏より広くご意見を頂き、理想的な地域会のあり方を求めていきたいと思っております。今号より会報を刷新し、発行回数を増やし、広く会員諸氏のお考えや近況等、お寄せ頂けるように致しました。奮ってご投稿願います。

7月31日の納涼会に合わせて行った「本音で語ろう会」には多数の会員の皆様に参加頂き、活発な意見交換がなされました。御礼申し上げます。



## 刺激し合う友人でありたい

副代表・編集委員長  
関 邦 則

このたび総会を前にして北信地区からクラブ副代表に就任いたしました。時期を同じくして関東甲信越支部の業務委員と、クラブ編集委員長を受け継ぎましたので、しばらく様子をつかめるまでパニック状態です。

長野県は時間距離が近くなったとはいえ、広さに変わりはなく、地域性も様々です。また、クラブ会員にしてもその立場や、考え方の異なる人の集団です。私たちのクラブは全県一区ですから、そうした差異を乗り越えて、どのように会員を集約し、活動を維持していくかは常に大きなテーマだと思っております。最近新しい会員もかなり増え、組織として成長していることは喜ばしいことと感じていますが、反面活動への関わり方にアンバランスが出ているように思っております。仕事も関心も共通する仲間ですから、互いに刺激し合う友人でありたいものです。

そのためにはコミュニケーションや、出会いの機会がたくさんあることが最も妥当な方法だと考えます。このたびクラブ会報の体裁を改めるに当たって、内容も会員同士のコミュニケーションツールとして機能するものにしてみたいと考えどんなことをしているのか知り、知らせる場として、大いに参加してほしいと切望しています。

## 北信



## 建築学生だった頃

君島弘章  
君島弘章建築設計事務所

はるか昔、いや、ほんの少し昔。

僕が建築学生だった頃、常に3、4人の仲間と共に寝食を共にしていた。(仲間どうしてそれぞれの家をとまりあるくといったとんでもない青春をおくっていた)

学校から開放された夜、皆で飲み、課題をこなし、建築を語り合った。いよいよ就寝の時間となると皆ふとんへもぐり込み、それぞれが読書を始める。まさに「オタク」の時間であった。「ライトの生涯」「ルイス・カーン」「ル・コルビジエ」等読む本はさまざまであったが建築という共通項は一致していた。

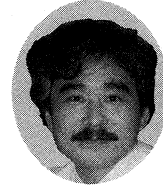
今にして想えば楽しい日々連続であった。思い出すと笑ってしまうが、いよいよ寝るという2、3分前の顔の顔といったら、まるでホウズキの実のように真赤になっていて異常な様子であった。読書をし、気分を高め、希望を夢みて寝る。そんな無邪気な日々をおくっていたのが、今ではなつかしく思い出される。

クラブの会報が新しくなるとの事で、編集の北信地区担当を命ぜられてしまった。本来ならば原稿を皆さんにお願いする筈でしたが、忙しさにかまけて時期を逃してしまいました。ゴメンなさい。

あくまで私的な意見ですが、専業建築家の集団である長野県クラブは専業ならではの話題が存在するであろうし又、そんな刺激があってしかるべきだろうと思います。

皆がこの会報誌は広場であるとの認識の上に立ち、どんどん投稿する同志が増えていく事を期待します。

## 東信



## 仕事、趣味、修行、OB

中澤栄二  
㈱エービーシー一級建築士事務所

長野県クラブの会報が新しくなるとの事で原稿の依頼があり、なんとか逃げられないかと思ながら話を聞くと、約2年毎にみんな書くとの事。どうせ書くならと引受けたが…。東信地区のゴルフで言うオーナーの立場で最初が肝心。オーナーがOBだったからなんて言われないうち様真面目に書こうとペンを持つ。が中々進まない。テーマを何にしようか考えているうちに締切りが迫る。日程は余裕があったのに提出日にならないと出来上がらない。設計コンペの締切と同じ状態である。現場では工程会議の時に、最初に頑張ればあとが楽だよ(子供にもよく言う)なんて偉そうに言っていて。人に厳しく自分に甘い。まだまだ修行が足りない。反省。

そんな訳で私は今、修行というか、友人に勧められた研修を受けている。研修の中に仕事に就いての事があった。それは、仕事をただ生活の為、売上の為と思わず、趣味道楽と考えて楽しくすると、より素晴らしい結果になる。こんな事はあたり前、承知の事だが、改めて考えると、いつも楽しんでいるとは限らない。楽しんでない時の仕事は、完成後に、その前を避けて通っている様な気がする。研修を受けて、考える機会があり、このあたり前の事が出来ていない事が判り、このまま続けたら通る道がなくなるぞと気が付いた。

あなたの趣味は？と聞かれたら「仕事が趣味です、楽しんでます、時々ゴルフもしますが」と言える様修行を続けたいと思っています。修行するぞ、修行するぞ…(今話題の宗教では6回ぐらい言う身に付くらしい)

この原稿も楽しんで書いています。早く次の番がこないかな。

お客さん、黄マークから4打目でどうぞ、と言われそう。

豊富な経験

確かな技術で

責任施工

(総合建築防水)



坂田工業株式会社

長野市稲里町下水鉾蒲田167-4

TEL 0262-86-3751(代)

FAX 0262-86-4450

アルミサッシュ、カーテンウォール、  
型鋼カーテンウォールの総合メーカー

昭和鋼機株式会社

〒174 東京都板橋区前野町6丁目1番10号

TEL 03-969-1171

FAX 03-960-1409

# 中信



## まちづくりに思うこと

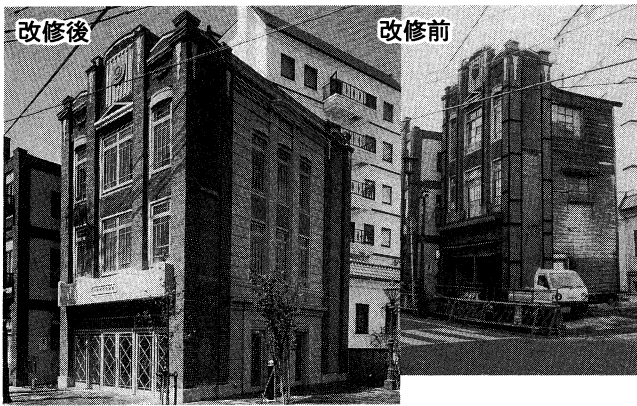
児野 登

㈱アーキテック環境計画研究所

この5月、松本市上土町に、擬洋風建築を附加再生した下町会館という小さな建物が周辺歩道の整備と共に竣工しました。老朽化で解体寸前となっていたが、再生のきっかけは設計三団体主催による平成4年の第8回松本市景観フォーラムで取り上げたことでした。

平成元年からまちづくりに関わってきて今思うことは、神戸大学の重村力先生がおっしゃった“まちづくりにはきちがいと言われるような熱意ある三きちが必要だ”という言葉です。三きちとは、民間人、官庁の役人、専門家のことです。そこで専きちが担う役割は、民きちや官きちの気軽な相談相手となることです。そしてまちづくりのアイデアやそのアイデアの技術的根拠を創り出すことです。

専きちには、地域で活動する私達がふさわしいと思います。JIA会員の専きちを有効活用する為に、会員の情報交換の場や、協力しあえるシステムをJIAの中に創り出せれば、住民主体のまちづくりに、もっとはずみがつくのではないのでしょうか。



# 南信



— 虚言 —

## 「建築家」よ、まちへ出よ!

湯沢 啓次

(有)エスケイシー経営開発室

柳沢先生の講演会から早1ヶ月が過ぎました。未だにあの時の新鮮な感激は強く私の胸に焼きついております。建築に無縁の私にとって、建築家自身の言葉による作品の解説は含蓄に富み、先生の作風を理解するまたとないチャンスでした。改めてこうした席に加わせていただいたJIA会員の皆様の懐の大きさに感謝いたします。

ごく普通人を自負する私にとっては、幾つかの公共建築は奇を衒うだけの難解な建造物に過ぎないものでした。この度の講演会を通じ、建築家が何を目指し、何を実現しようとしているか、その片鱗だけでも分かった様な気がして益々建築への興味が尽きません。

同じコンクリートの壁面も出目地をめぐらす事により鋭い夏的光線すら柔らかい陰影の中に分散させ、歩く者の気持ちをも落ち着かせてくれるのか…。自然を出来るだけ活かし建物と周りの空間を見事に融合させた郡山美術館。東京都現代美術館では随所に仕掛けられた先生の狙いがとても印象深いものでした。ここは江戸だったんだと想い出させる水と石のプロムナード、水面を映すソリッドなアルミのスクリーン、エントランスに組みこんだ木肌へのこだわり等。過度な光はタブーとされる展示室へ思いっきり自然光を取り入れ、紫外線をもっともしない。そんな力強い作品を待ち受けるアトリウムを見た時、小柄な先生からは想像できない逞しい骨太の挑戦に思わず拍手したくなりました。対照的に粗雑な配置の案内板や近寄らせないロープ等、館側とのギャップが妙に違和感として胸につかえて仕方がありません。

講演会を終え深い感激とは裏腹に、ある種の疑問を抱きました。多くの公共建築は果たしてどれ程一般市民に理解され、親しまれているのだろうか。絵画の好き嫌いは個人の自由ですが、公共建築には莫大な税金が使われ一等地を何十年と占拠し続けるのです。住める為だけの建築から遠い昔に脱皮した現代建築にとって、建築家は建築誌の中だけで語るのではなく、市民に対してもっと饒舌であってよい。否、語部でなくてはいけない。それこそ建築を文化として育てる啓蒙ではないのでしょうか。東山魁夷が自身の作品についてビデオで私達に語りかけているように、建築家の言葉でその建築に触れる事ができたらどんなに素晴らしい事か、そんな夢さえ想起させてくれた講演会でした。

(湯沢さんは飯田高校同期の建築家・北川原温氏の親友。今回、西沢潔会員の紹介で特別寄稿していただいた)

## 屋根/外壁/形鋼

素材を生かすヤマキの主力製品

本社・工場/〒382	長野県須城市小河原3954-20(松川林間工業団地)	☎0262(48)1121代
東京支店/〒101	千代田区神田美土代町9-3(日経タイプビル2階)	☎03(3295)7961代
大阪支店/〒550	大阪市西区江戸堀1-8-17(岡本ビル5階)	☎06(446)1431代
名古屋支店/〒460	名古屋市中区錦3-7-13(ニューハウスビル3階)	☎052(971)1885代
東北営業所/〒980	仙台市青葉区本町2-10-22(第三太田ビル2階)	☎022(214)0555代
新潟営業所/〒950	新潟市江南1-5-1(Y Sビル2階)	☎025(286)5530代
長野営業所/〒382	長野県須城市小河原3954-20(松川林間工業団地)	☎0262(51)2105代
松本営業所/〒399	長野県松本市市場2-16(土田ビル2階)	☎0263(25)6453代

**ヤマキ工業株式会社**  
設計・製造・施工の一貫責任体制

## 建設資材総合商社

### 株式会社 角 藤

本社 長野市南屋島515 TEL 0262(21)8141  
本社/長野 工場/長野

支店営業所 長野・上田・松本・諏訪・飯田・東京・横浜・千葉  
前橋・太田・水戸・新潟・名古屋

## 建築設備機器と昇降機設備の総合代理店

(株)東芝・(株)荏原製作所 代理店

# 中信電機株式会社

長野支店 〒381-22 長野市青木島町綱島宇中小島769-11 ☎0262-83-3333代  
本社/松本市 支店・営業所 上田支店・諏訪支店・飯田営業所・佐久出張所

# 第3回文化講演会

1995年3月17日 長野市山王共済会館

報告/櫻井 武久 (株)櫻井武久建築設計研究所

## 第1部

### 基調講演「罰が当たる」

建築家 池田 武 邦



「神は人間だけを地球に与えたのでは無い。人間が何をしても良いのでは無い。このまま安易に私たちが建築を造り続けて行くと地球環境を破戒し“罰が当たる”」

池田先生は、1999年に建築家が一同に会するUIA北京大会(テーマは「未来の建築を考える」)でワーキンググループの座長をつとめられると言われた。“デカルト科学的方法論の自らの文明破滅”とその“デカルト症候群の治癒の方法”“文明より文化”“環境と自己犠牲”…等。池田先生の北京大会での御活躍を期待致します。

そんなテーマの中の先生の講演から主な部分を書き出しました。

池田先生は講演の中で、近代文明は人類を発展させたが、70年代に入り環境問題がクローズアップされる中で「人々はそうでない」と気づき始めた。文明の進歩は人間の欲望を満たすがゆえに終わりが無く、科学技術をベースとしており、地域性もない、いずれ破滅を招く。文化は、地域に立脚した、人々の集団生活や自然との関わりから生まれたもので、ある地域の文化を他に移したり、各地の文化に優劣をつけることは出来ない。文化には抑止力がある。日本文化の結晶ともいふべき“罰が当たる”という言葉は、人々が生きていく知恵であり自然に対する抑止力となっていた。川にゴミを捨てることは“水神様の罰が当たる”ことであり生態系を守ることに繋がっていた……と話を進められ、スライドを交え、ハウステンボスでの実践を語られました。

ヘドロとコンクリート護岸の経済効率の工場団地の造成地を観光名所によみがえらせるという計画において、破壊された生態系を取り戻すために、①コンクリート護岸を自然石とし生命を宿した②ヘドロ状の土を新しい土に替え40万本の植栽と運河での水の引込みをした③排水処理として5ppmまで処理し注水や散水に使い又パイプで浸透させ湾に出る水は1ppmとした④舗装は透水性とした⑤緊急時以外は電氣的音をさけ自然の音が聴こえるようにした⑥月や星の明かりを楽しむため照明は50LUX以下とした⑦街並みはオランダだが舟で直接入る様は江戸時代の舟宿をイメージした一等等。そして、今、各地に求められるのは、地域独自の文化を掘り起こすこと。そして建築や都市との関わりを考えること。それをしないで東京のマネをすることは“罰が当たる”とまとめられました。

## 第2部

### 座談会「生き続ける建築について考える」

建築家 池田 武 邦  
建築家 林 昭 男  
コラムニスト 山田 真 美  
司 会 松 下 重 雄

松下 林先生はJIA環境委員長として“サステナブルデザインガイド”をまとめられました。“生き続ける建築—サステナブルアーキテクチャー”についてお願いします。

林 環境悪化が問題となる中、未来の建築を考えると、長持ちする、長く生きられる建築を造ることが、省エネ、省資源に結びつき、環境悪化を是正出来る。JIAの会員の全員にこの考え方を知ってほしい。細かい内容は冊子にありますので、参考にしてください。2刊、3刊と増刊していきます。

山田 東京と飯山に住居があるのですが、飯山の方が最近では多く利用しています。昔の家は堅牢<sup>けんろう</sup>に出来ていてメンテさえすれば長持ちするのですが、東京のインテリジェントビルは私のメンテはいらない。自分を必要としていないのです。山の家(飯山の家)は自分を必要としてくれる。だから飯山の家に多く身をおくようになるのです。

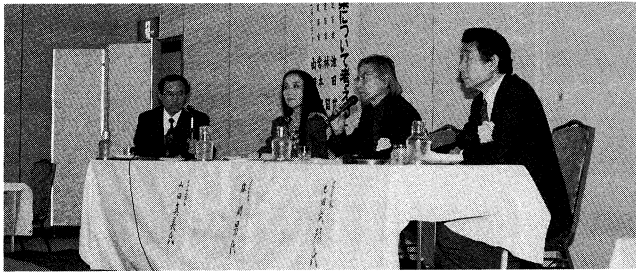


林 家に対する価値観の問題の中で、文明が建築の価値観をどんどん捨てている。「メンテナンスフリーより貴方を必要としているんだ」と問いかける建物の方が私は好む。それが一番大事なことです。それが生き続けることで、生き続ける建築なのです。

松下 阪神大震災を地球規模の環境問題とリンクしてお話下さい。

池田 震災の現地へ行ったのですが、水が無い。昔は井戸があったのですが水道の発達で井戸を捨てたのです。井戸には水神様がいました。井戸を再構築するのは今の環境問題をどうするかと同じ問題だと思います。都市の中でいかに水を浄化するか。人間にとってまず大事なのは水です。水の立場になって考えて、水の中に住むバクテリアも人間と同じ神の創ったもの。バクテリアと人間に介する生物に、要、不要をデカルト理論(文明)で崩





壊してしまっている。非常にまずい。人間も自然の一部ではないはずだ。

久米さん(公聴者) 自然を知らない子供たちが多くなり、いじめとか多くなっていると思います。これは親の責任だと思います。

松下 林先生のサスティナブルデザインの考え方で進めて行けば、人間らしい建築が造られて行くと思います。林先生に補足をお願いします。

林 1992年ブラジルの地球サミットで、世界の環境問題が初めて取り上げられました。いろいろの理念がありますが、毎日毎日、一人一人が環境を考え意識することが必要です。それを設計者一人一人に普及していくことが責任でしょう。

山田 神戸市役所が大震災で水道の機能が完全に麻痺した。そのようなことが、大英帝国の植民地を捨てたインドにもおこった。今の分業化してしまっている形態に問題があると思います。

倉石(公聴者) 自分もコンクリート護岸工事に接していますが、自然環境に対して役所にどう対応していけば良いのでしょうか。

池田 コンクリート護岸は良くない。同じことを体験した時、町長と県に真剣に訴えて、設計を変更させた。人間と人間との信頼関係でそれは出来るはずだ。

小笠原(公聴者) 自分が護岸工事の地権者となっていました。先祖の土地を提供せざるを得ないのでしょうか。

池田 自己犠牲が無ければ自然環境は語れません。環境を良い方向へ向けるのは自己犠牲です。

松下 琵琶湖博物館のプロジェクトで、池田先生は、この施設をここに計画するべきではないと、毅然として取り上げることに努力された。このような行動を取れる先達はすばらしい…と鬼頭梓会長も言われています。

山田 天井の高い建物に幼少期に住んでいた人は偉人が多い。中国の建物計画の、一命二運三風水の中では、大きな建物でも風、水を考えよ、とされている。天井の低い建物では人材は育たないのではないのでしょうか。

飯山の男性(公聴者) 飯山は寺の町のイメージで町づくりが進められているが、他の町のタイトルを代えただけのマップで進んでいる。雪は冷たいと他人は言うが、人間の心に訴える雪は暖かい。

池田 その土地、その風土で、どんな町づくりが良いのか十分考え、そこに住んでいる人の考えを取り入れるべき。中央からの押付けは良くない。阪神大震災の復興計画でも十分そのことを考えたい。

林 シンボリックの建物が文明の為に崩されることを聞いた時に、私は残す運動をして成功したことがあります。JIAのメンバーは、建築の専門的知識があるのだから、そのような場合手弁当でどんどん参入していくべきでしょう。…一歩下がって。

山田 完ぺきな建物は窮屈です。どこか抜けているような建物の方が愛着があります。どうかそのような建物を皆様に計画していただきたい。

松下 阪神大震災のようなきっかけというものが起こった時、反省という立場に立つことが大事です。価値観の転換の中に身を置いてどんどん行動することが大事。建築家が一人で地域で頑張ってもたかが知れています。JIAのメンバーが横の連絡を取り合いながら行動出来たら良いと思います。また、市民の立場になって進めることも重要です。それには、サスティナブルガイド等の考え方を生かしたいと思います。

建築・戦後50年企画

## '95建築文化講演会

1995年5月17日 軽井沢プリンスホテル

弟子の見た巨匠

# A・レーモンドの世界

建築家 三沢 浩



新緑が美しい5月17日の軽井沢で開かれた講演会。併せて現存するレーモンドの作品を実際に見る機会があった。旧軽の聖ポール教会はプロポーション、丸太組の構造、光が織りなす内部空間の素晴らしさ。軽井沢夏の家は2階へのスロープの上昇感、のびのびとした水平感など、とても60年前の建築とは思えない素晴らしさ。

基調講演では、レーモンドの高弟の三沢浩氏により「戦後近代建築への批評を問い直す」との切り口でレーモンドの生き方を通して日本での近代建築の意味が語られ、引き続き聞き手の松隅洋氏とシャープな対談が闘わされた。

とにかく表面的なスタイルで語られる事が多い近代建築

報告 / 新井 優 (南みずび設計)

だが、レーモンドはシンプル、ダイレクト、正直、エコノミカル、ネイチャー等の5原則に基づき、古き良きヨーロッパにあったものを日本で見い出し、その場の環境に適応し、民主的な考え方で建築を生んできた。そしてディテールの洗練、工業化への努力、大工等の施行技術、構造家との協働、現場主義の徹底等。

バブルが崩壊しポストモダンの潮流が霧散し、建築を支える大文字の思想が空白の現代に於て尚、根底にある近代建築の意味を再度見直す良い機会であった。



## クラブインサイド

### 久しぶりの技術交流会 坂田 守夫

2月7日、かねてより懸案であった技術交流会を、(株)栗本鉄工所さんのご協力で、中空スラブ工法の説明会を開催致しました。PRビデオを見、技術的な説明がありました。人数は30名と少なかったのですが、何とかうまく進める事ができました。今後も機会ある度交流会を開催しますので、ご協力をお願いします。

### 第3回文化講演会 斉藤 治

第3回文化講演会が3月17日に長野市の山王共済会館で開催され、100名を越える聴衆で会場が埋まりました。基調講演は建築家の池田武邦氏。「罰が当たる」という題で、建築を含めた近代文明があまりにも人間中心主義でありすぎた事を指摘され、これからは自然や特に大地の虫を大切に作る環境づくりが大切であることを示唆された。第2部は座談会。「生きつづける建築について考える」のテーマで、林昭男氏、山田真美氏が加わり、松下重雄氏の司会のもと、各氏の体験が語られました。山田氏の「天井の高さが人間のあり方に影響する」との発言が印象に残りました。

### 好評だった作品展示—総会報告 関 邦 則

1995年度通常総会は斎藤孝彦関東甲信越支部長にも出席を賜り、6月8日(木)午後1時15分より長野市・山王共済会館にて開催されました。通例に従って6年度事業及び収支決算の報告、続いて7年度事業計画と収支予算が承認されました。新年度は予算の大幅な削減という緊迫した状況ですが、『信州建築家カタログ』の作成研究等、積極的な事業展開の姿勢は何とか保持しようとしています。

引き続き学生卒業設計コンクールの表彰式と、先に日本芸術院賞を受賞された柳澤孝彦先生による「建築の生命(いのち)」と題する講演会が行われました。

今年は会場前のホールを使用して会員の作品パネルと模型展示を行いました。初の試みで準備の時間もあまりなかったにもかかわらず、充実した展示で好評でした。会員相互でも有益だったと思いますが、学生には殊の外刺激になったのではないかと感じました。

### — 新入会員紹介 —

#### 賛助会員(専業設計事務所)

(有)かわかみ建築設計室	(松本市)
(株)ローカル建築設計室	(諏訪市)
(株)依田建築設計事務所	(上田市)
甘利享一建築設計舎	(小諸市)
池田建築工房	(佐久市)
(株)シティープラン	(北佐久郡)
片倉隆幸建築研究室	(岡谷市)

#### 賛助会員(メーカー・代理店)

リリカラ(株)松本営業所	(松本市)
ダイダ(株)長野営業所	(長野市)
(株)川島織物販売長野営業所	(長野市)

## クラブアウトサイド

### 95建築文化講演会(軽井沢) 出澤 潔

新緑の5月17日、軽井沢プリンスホテルにおいて、三沢浩・松隅洋両先生による「弟子の見たA・レーモンドの世界」と題した講演会が行われました。朝からレーモンド作品の見学会も行われ、予定していたバスに乗りきれない程の参加者がありました。講演会は、今、私達がかたじけなく忘れてしまっている「建築の純粋性」について話していただき、とても感銘深いものでした。

### アーキテクツ・ガーデン95 松下 重雄

「建築家の日」のイベントは、今年から「アーキテクツ・ガーデン」と名称が改まり6月10日から18日まで昨年と同じく新宿の工学院大学で行われました。

「建築家と模型展」がメイン企画ですが、今年に加えて20以上のセミナーが連続開催されました。16日の「美術館の設計の今日」と題された柳澤孝彦先生の講演と、それに続く氏の芸術院賞の受賞を讃えるパーティーでは、会場に溢れた人々がその人気を物語っていました。先生から当クラブへお礼がありましたので報告致します。

### 《お知らせ》JIA大会95軽井沢プログラム

溝 端 利 一

JIA'95軽井沢のプログラム概要が決まりましたので、お知らせします。

テーマは「建築家とは…」です。建築家のあり方が問われている今日、地元軽井沢の大会に長野県会員全員の参加をお願いします。(1日のみの参加もOKです)

日時 1995年10月26日(木)~28日(土)

会場 軽井沢プリンスホテル西館

10月26日(木) 13:00 ~ 20:30

▷オープニングセレモニー ▷会長基調講演「建築家資格制度について」 ▽シンポジウム「問われる建築家像」▷オープニングパーティー

10月27日(金) 10:00 ~ 15:00

▷座談会「建築家とは…」 ▷ワークショップ「建築の新しい発注方式を求めて」 ▷新人賞を語る(1995年度受賞者)

10月28日(土)

▷エキスカージョン ▷軽井沢建築ウォッチング ▷ゴルフコンペ 他



JIA長野県クラブ

編集人 関 邦則

発行人 須田考雄

発行所 JIA長野県クラブ  
長野市大字南長野字  
宮東426-1

長野県建築士会館内

TEL 0262(32)3897

FAX 0262(32)5303

作成 新建新聞社